特別なお客様へお贈りするミツオカならではのカーライフエッセイ

mitsuoka press

ミツオカプレス

特集

工場見学「塗装上塗り工程」

Series

もっと、感じよう。ミツオカのクルマができるまで。 Vol.3

上塗り工程を担当する塗装メンバー○○さん

小さな工場には、夢がある。

MITSUOKA

株式会社 光岡自動車

特集

工場見学「塗装上塗り工程」

ひずみを削りとり、下塗りを仕上げて、
メイクアップの準備がすっかりととのったViewt。
手間と時間をかけた塗装で鮮やかに艶やかに変身していく、
塗装上塗り工程を見学させていただきました。

(株)光岡自動車　横野工場
富山県富山市婦中町横野100
076-465-4361
http://www.mitsuoka-motor.com

Series
もっと、感じよう。ミツオカのクルマができるまで。
工場見学「塗装上塗り工程」

1／水拭き・養生・脱脂

塗装の直前ぎりぎりまで、下地づくりがつづきます。

完璧な塗装のためにおこなうのがいくつもの下準備。

ボディに付着した削り粉を拭きとる水拭き、塗料をつけたくない室内やエンジンルームを覆う養生、ボディに付着した油分を拭きとる脱脂があり、なかでも徹底的におこなうのが脱脂です。

油分は塗料をはじく性質をもっていて、ここでしっかりと拭きとっておかないとムラができてしまうのだそう。

削り粉も油分もチリもホコリも限りなくゼロなんて、さすが下準備から余念がありません。

クラフトマンボイス
「ミツオカのクラフトマンは手を抜くことを絶対にしない」

下準備は地味ながら重要な作業。どれかひとつでもおろそかにすると仕上がりがあきらかにまずくなります。ですから、水拭きや脱脂は徹底的におこないますし、養生は塗料がつかないようにするだけでなく、養生シートにふくらみをもたせてスプレーガンがはいるゆとりをつくるなど、塗装がしやすいようにおこないますね。下準備だからといって、ミツオカのクラフトマンは手を抜くことを絶対にしないんですよ。

2／調色

塗料の配合ひとつにもこだわる。そのクラフトマンシップに感動です。

塗装の直前におこなうのが調色。標準色やオプション色にくわえ、お客様から指定されたオーダー色がきちんと再現できるよう、配合と試し塗りを繰り返していきます。

仕上がりを左右するのは塗料ばかりではなく、その日の気温や湿度、クラフトマンの技術や体調とじつにさまざま。それらをひとつひとつクリアしながら理想の色にちかづけていく、ミツオカらしい根気の作業がつづきます。

いくつもの条件を考慮しながら、そして、理想の仕上がりを想定しながら、塗料やシンナーを配合していきます。調色は、トライ＆エラーをいとわない根気にくわえ、長年の経験でつちかった勘も必要になる作業なのだそうです。

3／上塗り塗装

体力も集中力も試される、一発勝負がはじまります。

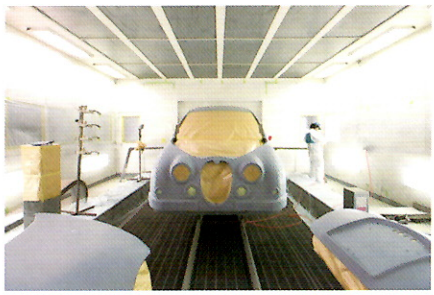
丹念に拭きあげたボディと緻密に調合した塗料がそろったらおこなうのが上塗り塗装。

外部から隔離されたブースのなかで、クラフトマンがたったひとり、一発勝負の作業に挑んでいきます。

塗料は厚く塗り重ねるとタレが起きたり、安易に塗り足すとムラができるので、1周につき1回で塗りあげるのが必須なのだそう。しかも、塗料を硬化させる時間をとりながら、6〜10周もおこなうだなんて大変！　ですが、みなさん、すごくいきいきと作業されています。

聞けば、若手のクラフトマンの育成がすすんでいて、熟練のクラフトマンの指導のもと、日々、練習をつづけているのだそう。

未来のレジェンドがいままさに研鑽を積んでいるのだと、おもわずしみじみです。



スプレーガン

スプレーガンはタンクに充填した塗料をエアで霧状にして吹きつける工具。いちどに塗れる範囲はさほど広くないので、わずかな塗り残しやムダな塗り重ねがでないよう、クラフトマンにはかなりの集中力が求められるのだそうです。

クラフトマンボイス

「ミツオカのクルマをますますレベルアップさせていきたい」

上塗り塗装でなにより叶えなければならないのが彩りと輝き。

簡単ではありませんが、どちらもしっかりと引きだすために、ボディ全体の肌が均一になるように塗ることを追求しています。

これからは技術の向上にくわえて前後工程の理解もはかり、ミツオカのクルマをますますレベルアップさせていきたいですね。

4／乾燥

乾燥炉からでてくるまでの3時間、期待と不安がふくらんでいきます。

上塗り塗装が完了したらひと晩寝かせ翌朝おこなうのが乾燥。

高温に熱した乾燥炉にViewtをいれて、塗料を焼きつけ、皮膜を強固にしていきます。

約3時間後、乾燥炉からでてくるViewtと緊張の対面！

理想どおりの彩りと輝きに仕上がったときのうれしさは唯一無二なのだそう。

あれだけの手間と時間をかけているのだから納得のひとことです。

5／第一補修

理想の塗装面づくりに、まだまだ終わりはありません。

塗装面が安定したらおこなうのが第一補修。

新たについてしまったチリやホコリをひとつひとつペーパーで削りとっていきます。

このとき使用するペーパーは2000番～3000番。塗装下地工程の面出しで使用するペーパーが400番～600番だから、かなりの目の細かさです。削りとることでくすんでしまった塗装面は、しっかりと磨きをかけてつややかに。こだわりにこだわってつくりあげた色彩と光沢をまとうボディはまるで宝石のよう。

眺めるごとに惚れ惚れです。

クラフトマンボイス

「削って、磨いて、美しさが増したときにはやりがいを感じます。」

第一補修は塗装のクオリティの向上には必要不可欠。

1日中、塗装面とにらめっこするのはラクではありませんが、削って、磨いて、美しさが増したときにはやりがいを感じます。追求するのは、お客様に満足していただけ、クラフトマンに一目置かれる仕事。

そのためには決して妥協せず作業に取り組んでいくしかないとおもっています。

6／仕上がりチェック

最高の仕上がりを叶えるべく、レジェンドの鑑識眼が光ります。

なめらかでつややかな塗装面ができたら、塗装上塗り工程の責任者による仕上がりチェック。

15年以上の経験をもつ熟練のクラフトマン＂レジェンド＂が、どんな小さな不具合も見逃さない鑑識眼で精査していきます。

仕上がりにお墨つきがでたら、次はいよいよ組立て工程へ！

どんなシーンに立ち会えるのかドキドキ・ワクワクです。

レジェンドボイス

「メンタルとフィジカル、すべてがそろわないと最高のものにならない」

これまで数えきれないほどの塗装をしてきましたが、仕上がりに納得できるものには出会っていません。

塗装というのはすごく奥が深くて、その日の気温や湿度、クラフトマンのメンタルとフィジカル、すべてがそろわないと最高のものにならないんです。だからこそ、僕自身つねに最善を尽くしていますし、若手のクラフトマンもそうであってほしいと考えています。

彼らの技能を引きあげるには、僕自身が新しいことに挑戦しつづけ、それをそばで見てもらうことがベストだとおもっています。「やってみたい」「やってみよう」と感じてもらえれば大成功。モチベーションを向上してもらって、知識・技術を研鑽してもらって、1日も早く先輩たちに追いついてくれればいうことはありませんね。

もっと、感じよう。ミツオカのクルマができるまで。　次回は「艤装工程」です。

PICKUP!

知っていると得をする？静かなるミツオカヒストリー

ミツオカ ラ・セード LIFE SECOND DREAM

Le-Seyde

1996-2004年3月生産終了...

ライフ、セカンド、ドリーム（Life Second Dream）。
第二の人生を、そして飽くなき夢を追い求め、自由を味わいながら長い人生を謳歌する。人生＝Life、第二の夢＝Second Dreamの短い言葉の頭文字から、意味を踏まえ名づけられた造語です。

Le-Seydeは特別な車ではない。
クラシックカーに乗っている人達の正直な声が生んだ、パワーウインドウ、パワーステアリング、エアコンなどの機能をもつ、このクルマ。
特別ではないから、毎日乗れる。ドライビングは自分なりの価値観で心ゆくまで楽しむ。そう主張できる車になった。

小さな工場には、夢がある。

MITSUOKA

株式会社 光岡自動車

No.15091011

art direction by [mitsuoka design]